

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	1
サポートクラス	メイジ	Lv.1:	メイジ	性別	男
称号クラス				年齢	19
種族	エルダナーン			境遇	正体
出自 (効果)	騎士			目標	好奇心

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	8	10	16	7	10	7
ボーナス	2	2	3	5	2	3	2
クラス修正	0	0	0	2	2	2	0
他修正							
能力値	2	2	3	7	4	5	2

HP	27
MP	36
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	素手	至近	0	0	0	0	0	0	0
左手									
頭部									
胴部	ローブ					2			
補助									
装身具	グリモア								
能力値			2	0	3	0	5	7	7
スキル									
その他									
総計(右)			2	0					
総計(左)					3	2	5	7	7
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	2			2	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	7			7	+ 2 d
アイテム鑑定	7			7	+ 2 d
魔術判定	7			7	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
アクセサリ	MPポーション
冒険者セット	
野営道具	
ローブ	
ランタン	
火打ち石	
チョーク	
筆記用具	
バックパック	
ベルトポーチ	
MPポーション	

現在重量: 13      所持金: 1010      預金・借金:

最大重量: 21

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
マジックセンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 作成時に知力基本値+3								
マジシャンズマイト	2	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
コンセントレイション	1	-	パッシヴ	-	自身	自動		
効果: 魔術判定に+1D								
エアリアルスラッシュ	★	6	Xジャー	20m	単体	魔術		
効果: <風>属性の魔法ダメージ[2D+5]。魔術判定に+1D。クリティカル: ダイスロール追加。								
エアリアルセイバー	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: <風>属性の魔法ダメージに+[SL×4]。								
エンラージリミット	1	-	-	-	自身	-		
効果: 所持品の重量制限が[筋力基本値]×2になる。								
マジカルハープ	1	-	-	-	-	-		
効果: シナリオ開始時にMPポーション3つを取得。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

――自分は両親の実の子供ではないらしい。

そのことを知ったのは偶然であった。私と両親はなぜ耳の形が全く違うているのか、そんな些細な、ちょっとした好奇心であった。そんなちょっとした好奇心が連れてきた現実、小さな子供に襲いかかるにはあまりにも重い現実であった。

自分の実の両親は、アーデルハイド家として代々王家に仕える騎士などではなく、自由気ままに旅する旅人だったなんて。それでも両親は、つまり育ての親たちは、私に対して私の本当の両親のように接してくれた。

だが――本当の両親はどんな人達だったのか、どんな風に生きているのか。

幼い私にとって、好奇心の矛先は本当の両親のことへ、そして冒険家のことへ向かっていった。

そして私は、密かに冒険を夢見る青年へと成長した。

だが私の将来は王家に仕える騎士であると定められている。冒険なんて夢のまた夢なのだ。

両親に本当の両親について、冒険について、そんな話をしたことはなく、夢も半ば諦めていたのだが、父上も母上も気付いていたのだろう。

私の刀札(トル)の儀(=騎士叙任式)の数日前、父上は私に告げたのだ。

「お前ももうとっくに気付いているだろうが、お前は私達の実の息子ではない。

冒険者について、本当の両親の行方について、そしてこの世界について、知りたいのではないかな？」

なに、何年か冒険してからでも騎士になるのは遅くないだろう。

好きなだけ、納得がいくまで、冒険してくるといい。この世界について、思う存分見て来るといい。」

かくして私は、念願の冒険の旅へ出発することとなった。両親にはどんなに感謝しても足りないだろう。だからまずは、冒険者としての知識を、能力を鍛えることこそが今できる両親への最大の恩返しになる。

そう思った私は、ちょうど初心者冒険者指南用のクエストの張り紙を見つける。

私は戦闘以外はからっきしののだ。私一人ですぐに全滅してしまうだろう。

私と同じような初心者冒険者と共に旅をすることができれば……そう思い、私はそのクエストに志願したのだった。

相棒の短剣『クンシラン』と共に、私の冒険が幕を上げようとしていた――。